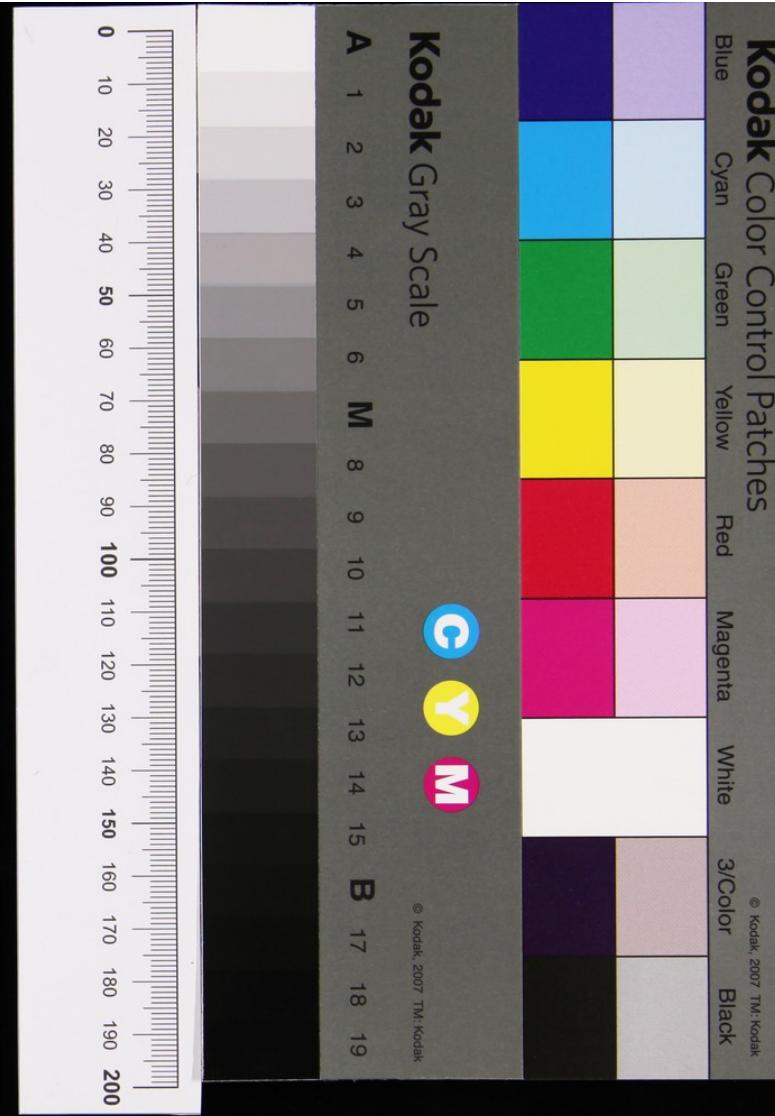
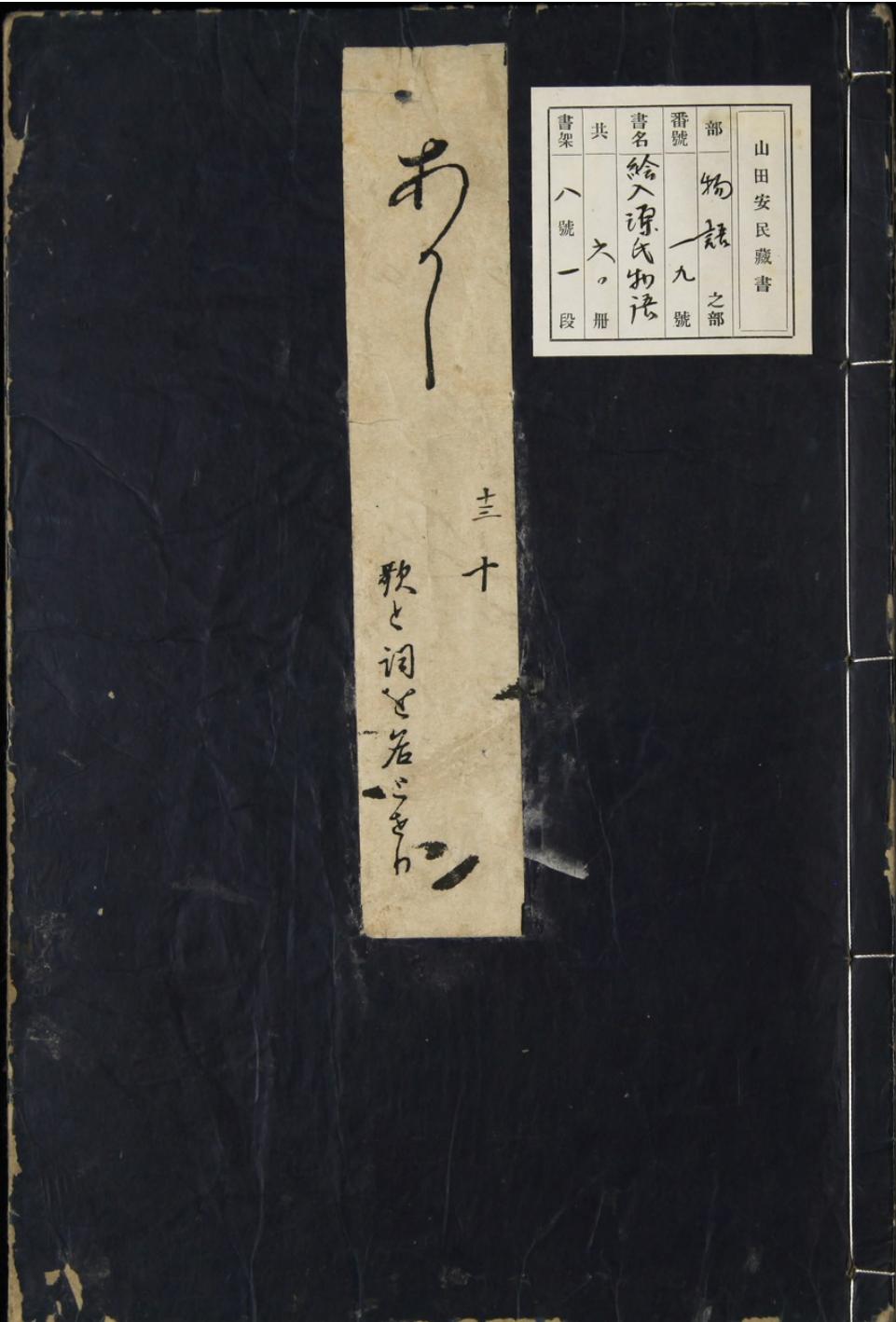


絵入源氏物語

巻十三 あかし

楣山女学園大学デジタルライブラリー

楣山女学園大学図書館



保氏サ六月ノ三月ナリサセサモテ
うの成雨風やサボ神アリテケタニ
保ム
アリタリバ一ノツメテキラサボルシ
モニタニテモレカ有風モハアツクシ
モニサバシタセキアツリタニテカヨハシニシトモ
モニタニテアリタニテノハシニシトモ
モニタニテアリタニテノハシニシトモ
モニタニテアリタニテノハシニシトモ
モニタニテアリタニテノハシニシトモ
モニタニテアリタニテノハシニシトモ
モニタニテアリタニテノハシニシトモ



日うがまくへて、京のこもりをばつらぐ
くうむくはくすうつるやと。うらはくう
かくちと。うらうへくすあめのうのうれよ
うでうらまうくへく。二葉院よりぞうがくよ
あやしと。案と。うれうくわくみうくよ
人うながと。うながく。うくべくすあくす
うくひくひくひくひくひくひくひくひく
うくひくひくひくひくひくひくひくひく
うくひくひくひくひくひくひくひくひく
うくひくひくひくひくひくひくひくひく
うくひくひくひくひくひくひくひくひく
やうくひくひくひくひくひくひくひくひく
ひくひくひくひくひくひくひくひくひく

浦内やいのむらんらひやう袖引め
きまうちひじ衣よもぎもくさあつめ
ゆうひとあくすりゆく。みどりまくらぬぐく
きくすまちと経使羽京とこれ雨あわせやあやま
あくまくすりとて仁玉会うどきるワタベ
とあんまくゆう。うらはあり路えぢ上達えぢかアキドもすへ
てたとびてうらじとよめてあんぬうど。うら
くうよめづくあくうかりとよど。京の
このとくをばきだりようておまくよめ
せとくをよ。御の氣のをやまくよりて
風ふうひよく。吹ふきりて日ひじうよもくとくは

例有る事無く御用の御内侍の所
と御内侍のひつじの御内侍の所
ゆうぢりて御内侍の御内侍の御内侍
てをうるの御内侍の御内侍の御内侍
くへてはあべやとおばまくへ
きの日の曉ちゆふるはまはま
浪のあまいの山もあまきよを
あらうこのあらひのまくへ
ておちくさかとおばゆるおおきに
あらはいのまくへておおきに
おおきにあらはいのまくへ

名をもとでおあべとおおきに
おけりておよびのあやまうておれうご
金とおほせんとおうおおせど、おおせは
おれがまのうておおせど、おおせは
のうめらうめらをおおせど、おおせは
をこれま神うおおせど、おおせは
大歎をしておおせのくわげの令をもおおせ
おおせ、おおせのうめらを例おおせ
おおせのうめらを例おおせ
すすめをやり限ひおおせしてこれおおせ
すすめをやり限ひおおせしてこれおおせ

念ねんドねんすうしゆでいワいわのううききををややーーううれ
 きてきて、おおののそそーーううををうう経きーーどどよよ
 ききれれうういいくく、おおははややーーままののくくびび
 めめううととううくく、おおははくくうう人じ活はーーがが今いまのの
 ひひくくははよようう、ううくくくく、風かぜよよははやや社しゃ
 祭まつり天あらつち地ぢ、まつり天あらつち地ぢ、まつり天あらつち地ぢ、まつり天あらつち地ぢ
 づづききくくああををれれ象ぞうををくくれれ、くいいををううりりてて
 呼かれれややすすくく、くいいががくく、くいいががくく
 めめばばくく、くいいががくく、くいいががくく、くいいががくく
 いいせせののじじくく、くいいががくく、くいいががくく、くいいががくく
 いいだだれれううれれ、くいいががくく、くいいががくく、くいいががくく

むむこうこう、くののれれををくく、又また海うみのの中のなかのの龍りゆう王おう
 ううのの神じん、うのの神じん、うのの神じん、うのの神じん、うのの神じん
 そそくく、おりおり、おりおり、おりおり、おりおり、おりおり、おりおり
 ののややくく、やくく、やくく、やくく、やくく、やくく
 ううくくてて、ううう限かぎ、ううう限かぎ、ううう限かぎ、ううう限かぎ、ううう限かぎ
 胸きみ、きみ、きみ、きみ、きみ、きみ、きみ、きみ、きみ、きみ、きみ、きみ
 ううくくてて、ううう限かぎ、ううう限かぎ、ううう限かぎ、ううう限かぎ、ううう限かぎ
 ううくくてて、ううう限かぎ、ううう限かぎ、ううう限かぎ、ううう限かぎ、ううう限かぎ
 ううくくてて、ううう限かぎ、ううう限かぎ、ううう限かぎ、ううう限かぎ、ううう限かぎ

やく風うきう雨のあまくらはのひる
 もみゆふとれあつてのやくめいげくふる
 てうきりてせんぐくへうけん
 すよやけぬうくもじとくびとくの
 人のよきうくもじとくよくとくをかゆ
 うてうきをあつてうきをかゆ
 うすよほんいゆのんづきとくをかゆ
 う心あくまくに月うてのうくうち
 うれしもあくまくうれしとくをかゆ
 うの戸うきうてゆめうとくをかゆ
 うくわくとくとくとくゆきのうく



おやかにやへるがくとくらむのよ
あらまうきてアモテテ落あひだときえづ
あくまづくれどえきひともみゆす
氣風よとげやまうへりふとひのめりて
のうむきくまづくみのめすけをうつす
ぎりきりとくはくはくはくはくはく
をうそり

海の風が吹くと、さすがに涼しくなった。
やさしい音が聞こえてくる。自然をするつら
つらの音楽が、心地よい音楽だ。
音楽を聴くと、心も身体も、

されば心事ありまやうらまくどうも清々しきに
あさればどうりあるゆるよ二院とぞおへ
まく風ふみのうちうそどもくわや一之市
はれすとぞとがんばせりてひきとぞ候位者
の御のまうじを終まつゝやうでとぞこれ
うばまうねとの様子ほとぞうかくうな
れびりれりめりつゝうかくうな
このうかくうなれが今ハ此をうかくうな
うかくうなれと云ふべき院向あるうだよ
うかくうなれのうかくうなれじうひまうれく
うかくうなれと云ふべき院向あるうだよ

をのびる所ありされどのうきゆす程
アモキシテばくはうりてめりつれどにま
だりるよびしをうまくへて。うまくう
きよきよのぼりてくらうじよれどにま
つあやまづらる事すべくとありよもりあん
いきよきのぼりめうとて立たるあがくよく
アモキシマキアムとあひてうまくへて
れびくまくと。かのうのうまくへて
ゆりのうちもまほりもひまわくへて。内
雲表くもあひ。これびくらばゆめうりよもみまく
で。あくらばつるはなをほのうれど

まくはまくはまくの面おもてがヨリ便べんきく
いそげけりゆくわくとあくれよむばすよく
そくろくまくはりとあくれよむばすよく
とくばくらと限かぎり。しねつとくらじて。中なか
心こころよどみ。ひよどりのうまくへて。まけりて
ゆめ。わくくせうます。アモキシマ
きよきよのぼりとあくで。亮はるかなるまく
さくさく。うらやまうもと。くまく。人ひと三さん人ひとくらば
とくびのゆくとくとくとくとくとくとく

の石の浦より。此のまちの浦すらもひて
あわううら涼か細ぬすらひまつて對面して
ことれ心うちよさんとすうてこまがざくまて
へ道くれくのくひて。年代ありてくらひ
おつれどけくのくひて。いそくあひうしきく
竹す。とあきうきくはざまよほなぞひく
すうぬく成らこのまごれよばなまくくわ
ゆくとゆばめく。志のれすとすとくばく
あくすとよあくす。ややへとのまへじ毎よ
り多くあひうきくはざまよほなぞひく
いつのまようすとよあくすとくばくえぐく
さう。あうついものひの島。入道
あくすとよあくすとよあくすとよあくすとよ
とよあくすとよあくすとよあくすとよあくすとよ
あくすとよあくすとよあくすとよあくすとよ
いあくすとよあくすとよあくすとよあくすとよ
人のみよどりとよあくすとよあくすとよ
さうひやねうぬげうをよしるをぬりぬまでも
えいまうれひをよしむれひとよあくすとよ



四十一

のうりぢうき事のとくとうきみゆばる
のうりぢうがお底うんづれ海よふげやよくうふ
のうりぢうゆりさんやどのゆよびだりくくろ
のうりぢうゆりどどくあれくもあれおの
のうりぢうゆりはかよまれとて例のふ
のうりぢうゆりはかよまれとて例のふ
のうりぢうゆりはかよまれとて例のふ

そぞそりつづきにまよひのまゝとひだらば
 やへまよひでまゆうどのかうううりほんの
 まぬげよいとこううじとあうへきびりみゆか
 のこよんせううよしふりけくへ道のううドエ
 くうをく海のつゝよも山ぐれもすよつて
 けうとまよべさむがまわとやまとこあひとて
 ねのせのとをあすまくいへきし木のつゝ
 いあくさうじと見て三味をくちひこれよれ
 まよじりよ結のとれをうるふまのうのまく
 いじびきのくまのうをうるども。おうくくく
 いげくろくまくろだりておあくめうり。うく
 うくうて、れうじとめうどひさくのやどうう
 してまよとさればそれほんのうりよううやす
 はうりよす舟よりれ車よをりうつはく日や
 くうのぼりて、ほのくよううより老もつれ
 くうひのう心うちもておもてうえて。おうけ住すの
 神をうり。おうがくす。月の光をみよえなう
 ううゆううて、いとくこつううよいの裏とくう
 ううゆうう。原のまぬとばくよいのまく
 ううゆうう。立すて。前載うどの方移えもいも
 ね入の木をどもあようばんのくうすくうん
 くうへうきまよひすくうとある。かくうのまく

わくわくするやうな心地で立派な
 らひをもつてゐるが、必ずおけりの風ふとげ
 おのやんとくとくとくとくとくとくとくとくと
 まばゆいと風ふとくとくとくとくとくとくとくと
 きびききてはまのれかとくとくとくとくとくとくとくと
 つひいとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
 せばみとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
 きめいてはまのれかとくとくとくとくとくとくとくとくと
 すじへとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
 は程のれとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
 じくよひがとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
 二番院のうれしにれれれれれれれれれれれ
 つひいとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
 せれ氣色うれしにれれれれれれれれれれれ
 とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
 とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
 のうれしにれれれれれれれれれれれれれ
 うれしにれれれれれれれれれれれれれれれれれ

原

うれしにれれれれれれれれれれれ
 うれしにれれれれれれれれれれれ
 うれしにれれれれれれれれれれれ

遠きの山へてまわるるはあらへぬ。山へんあらぬ
 ありゆめの底がりてあらぬと。二代のさん
 おとされぬ底をもむかじるはあらぬ。うつり
 もうかふあらぬ底。あやしむものなかれ
説さむれせじつうの山をひとひで。おれ
 山のひだるな筋をこむつたうつぐも
 やあんばうでこれおのびてこむくとせで
 くるまよすやまむむりつる。うきくわざす
 へあう。説おとこみのいづれをやめくにげふ
 あらふむにげふれをやめくにげふ
 わや。うきくわざすやんひとくねうり
 けの山の山へまわるるがよれすれ
 おどよまれ。おとこみのいづれすれ。うきく
 のあらんか。すべてうきくよるはうれ
 人。うきくのいづれやうれのあらんか。
 うきくのいづれやうれ。うきくのいづれ
 ひやねうきくのいづれ。うきくのいづれ
 そようらうくわんむくよる。あらんかの
 中。うきくのいづれやうれ。あらんかの
 ひよすんのいづれ。うきくのいづれ。あら
 うきくのいづれ。うきくのいづれ。うきくの

つうてすまへすがまよるんじてとくよ
 さんあへなれまよるんじてふらう
 すふたりれうめいをつりあたすげりとく
 まくさくわくもゆかばすよおればほん
 おぼしての琴さうくて弦をきくうげ
 ひきうけてくづくとくはめくわめすら
 うすみてくの海うみてくのゆく
 うやひろりんうぶくよシムよくそく
 けひやうへうてくらきくあはくみ
 うつりやうくはくめくよだせく
 うゆきてあくせくへよきくあくよく
 とのびくよれきれくめくきくよく
 すりあくよ松くとくへうて月も入くよ
 うまよすくはうてとくうくよく
 のくうくよくとくとくうくよくとく
 ううづひのうのうくよくよくとく
 ううづひのうのうくよくよくとく
 ううづひのうのうくよくよくとく
 ううづひのうのうくよくよくとく
 ううづひのうのうくよくよくとく

はとけのあくれひおうきておアの程沖心
とすくやまへまつやまんがゆきうその故ハ
信吉の計をされミニシメキテ。一七八八年
よりぬめめりのひくまくはゆくまくは心
ゆりて。ジジウのま船シマヅルにまやくろ
まくろとすんゆうひまよみの六時の川とく。
まくろのまくろのくのびをばるもれく。
くくえ人を。くくくはいれへくくへくさん念ト
ゆくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
山行と。うりぬけめぢやだきのくくおをくから
くくくくくくくくくくくくくくくくくく
アブツラくこのくをくまんばのカヨク
ありゆくんじくくくくくくくくくくく
時うちれじくらんゆうばよーておのくくく
まくんじくふかくくくくくく
あまくのくのくをひしだあくくきめばみ
ふくりくもくねくゆれどくくくくく
ゆくまくまくまくまくまくまくまくまく
ゆくまくまくまくまくまくまくまくまく
ゆくせねくらんかまくゆくゆくゆくゆく
あくまくまくまくまくまくまくまくまく
をくせねくらんかまくゆくゆくゆくゆく

かうてまうらうすよ^{原句}
 とひけのせ界^{セカイ}よ^トあむの^トよ^ト
 りはつるくさりはいはいのの^トの^トの^ト
 わくさればげよあきの^トの^トの^ト
 そそくと衣^{アヒ}よ^トんが^トも^トう^ト
 猶^{ヨウ}けりと^トは^トハ^トは^トは^ト
 そぞれ^トと^トと^トと^トと^トと^ト
 とこくひよりの^トと^トと^トと^トと^トと^ト
 もこれ^トと^トと^トと^トと^トと^ト
 とくひよ^トく^トく^トく^トく^トく^ト
 ひく^トく^トく^トく^トく^トく^ト
 すくあると^トの^トの^トの^トの^トの^ト
 とほ^ト
 ひきれ^トの^トの^トの^トの^トの^ト
 ウ^トの^トの^トの^トの^トの^ト

入てう月がすくへりうるぶせきく
 うせきくとまく、ゆけくいうちつるくこれ
 どこすよゆくもくばざれどうくあれくん
 ひくとく
 ほおむき
 撫夜うくとくくまわくの草の根へ
 髪もじすくすくうらうされくふくらみ
 とくあいげつをうづくちくにけくひく
 くまくめくとぞくまくくれどくうくや
 ひくとくとくうくくれどくうくや
 うくとくとくうくくれどくうくや
 うくとくとくうくくれどくうくや



もうそひおうす。その日のひよつてはるべる
れうつてまはる。まくらをかぶる。まくらをかぶる。
中へまくらをかぶる。まくらをかぶる。まくらをかぶる。
まくらをかぶる。まくらをかぶる。まくらをかぶる。

まくらをかぶる。まくらをかぶる。まくらをかぶる。

ほ

まくらをかぶる。まくらをかぶる。まくらをかぶる。
やどのまくらをかぶる。まくらをかぶる。まくらをかぶる。
入ぬる人をかぶる。まくらをかぶる。まくらをかぶる。
けりもまくらをかぶる。まくらをかぶる。まくらをかぶる。
けりもまくらをかぶる。まくらをかぶる。まくらをかぶる。

まくらをかぶる。まくらをかぶる。まくらをかぶる。
人のまくらをかぶる。まくらをかぶる。まくらをかぶる。
まくらをかぶる。まくらをかぶる。まくらをかぶる。
まくらをかぶる。まくらをかぶる。まくらをかぶる。

まくらをかぶる。まくらをかぶる。まくらをかぶる。

まくらをかぶる。まくらをかぶる。まくらをかぶる。
まくらをかぶる。まくらをかぶる。まくらをかぶる。
まくらをかぶる。まくらをかぶる。まくらをかぶる。

こまくさうめうづけたるの日もくふじかひ

くわん

（は）
せくもくわらをやひれやくや
いとよくわらをひらみとくびも
とくにそくびなやういのう
けりきのうりんぐのうでうんちくめ
まうじかれるくわんぐでうとくれども
うひうのゆのじううかくれがく
くわらとくねくわでくくわ
てくの街のうとくわくわくわく
だまくわくわくわくわくわくわく

（は）
くわく

うらうらうらの行やくううう人の
まくやまんでのくわくわくわくやく
うくわくわくわくわくわくわくわく
くわくわくわくわくわくわくわく
くわくわくわくわくわくわくわく
くわくわくわくわくわくわくわく
くわくわくわくわくわくわくわく
やうくわくわくわくわくわくわく
くわくわくわくわくわくわくわく
くわくわくわくわくわくわくわく

そぞり身一氣色もまくぬきアキシテテアブケテ
 わんをされまへる事ひとどもいぢり
 おほへりうきよれて、人すまじあらばち方よくも
 海さうくしてんとゆがひあふく中こやんと
 うれしのへもよづきあうて、おとづる
 まくうすされば、バトテ、おとづりまの
 まくはざまくはざまくはざまくはざまくはざまく
 まくはざまくはざまくはざまくはざまくはざまく
 あるれおのびとやじ入へ生りてまくとおば
 まくはざまくはざまくはざまくはざまくはざまく
 まくはざまくはざまくはざまくはざまくはざまく
 あげめうりそせう、おやけよまくは
 まくはざまくはざまくはざまくはざまくはざまく
 三月十
 二日うきよひくはくをぬきにぎ、こゑみ
 だれは長よ院のみど、おまへのえつの年
 うきよひくはくをぬきにぎ、こゑみ
 を経たせり、お色ひよいておまへを経
 はくもゆきう、源氏のねよぐわうりりく

いもぢそううとくらとまつて。すと
 まくわせぬれば氣もどゆきまわる和のせ
 きうきとひきでゆうるく一ふやうす
 おーおどりまへとすとまゆるうき
 いよこあくまきよとくにけりやねめりづひゆ
 てじくへぐまうやうねばく
 実はもうううりあくともせぬけく
 とくのゆくわくちれどづくくよをのび
 くがくとくわくよ大もとこくくう
 ワくもとくわくよ大もとこくくう
 おーおどりくとく風かううはれゆくよ



まほすとひじをあらはんとおもひば
まほだちにひきのくわせをひそひてん
うへのひをせのめどりをうそひそひやうが
うみゆきで物をうへんとせこむらうひ
うすやうかくへんとせくとくのうへん
うじとくとくのうへんとくとくとくとく
はまかたまかたまかたまかたまかた
とくとくとくとくとくとくとくとくとく
風のとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

とくさうるるれ年ばあ年のこまで。つうたる
 人のはぢりをほのこすとこをもんとよどむ
 まゆるはなへーをくわしむけざりー
 かくはおとくのうみどりのつめかにせうる。
 うゑあたつてへやののとがはなてけて
 まゆあけくのひすなとばつまつて。つまで
 まゆあとのととひへとめうすとく。う
 ちゆれゆのうらめくまゆあきるとされをと
 まゆるよくとくとくとくとくのとじう乃
 ううかのうびとくとくとくとくとくとくと
 まうておばへうすとくとくとくと
 とうとんとくとくとくとくとくとくと
 まゆるとくとくとくとくとくとくとくと
 まゆあけ神をとみとみとくとくのとくと
 すせをとくとくとくとくとくとくとくと
 まゆあけのうこのとくとくとくとくと
 まゆあけのうこのとくとくとくとくと
 まゆあけのうこのとくとくとくとくと
 まゆあけのうこのとくとくとくとくと



四六

思ひよのぬやとがさむへそりのま
つうひてまかれてソテツの車もとまく川
くわざれどあさうとれ馬までおなれされ
うどぐらとまくもとまくらやまくらおなれ
まくのゆきとまくもとまくらやまくらおなれ
まくのゆきとまくもとまくらやまくらおなれ
まくのゆきとまくもとまくらやまくらおなれ
まくのゆきとまくもとまくらやまくらおなれ
まくのゆきとまくもとまくらやまくらおなれ

秋の葉のつむぎの落葉よづくをあるる
うれ時のゆきとまくもとまくらやまくらおなれ

くわうま風ほんすづくひそか不まさらてまああ
 まくあさりほんのうへいきくうふゆうく
 うれいさうばくすこま風ほんくよかてま
 はすといあくびとよじ人の心こころやうく
 まあれうるう二味堂まいたらくまの声こゑのぬよ
 ひくさあひて物ものいよかひうつうれ
 源みなとも心こころあま風ほんうめい裁そなどよまくの
 声こゑをつうさうううれす有ありすよどくとく
 ひきめすまくとまくの心こころうそとく
 うれうまのアゲラキモウとく
 うらやすひうるのゆうとく
 うらとくうううううれすよくうてうら
 うりぬ心こころをうるうも人ひとうれすよ
 ううううううのへううううううめれが
 心こころづくううううううううううう
 やうれうううおあづくううううううう
 うううううううううううううううう
 ワうれすよどうれううううううう
 ううん人ひとうううううううううう
 いよううううううううううううううう

まへやうじうげのま
じつとせうあきんひとれうを
の事ほもうべしやと

月つきめくやうてまくううはいづれを
まくつみてうんばのううけいひせの三
やもあうとくうきくうよざくらもくく
くらうりておうりけくほんじゆ人ひともく
わうみてらううけうぎーのううううて
いとくみけようとくほんとくあてもく
くらうみくほんとくどこのもううでく

あんべんほんとくあくまくびそく
けくとくとくほんあかぐちううけくほんをく
まかあくとくほんあくらうほんのううまく
すううくほんとくほんのううくほんのううく
明めうううきがくほんれどとくほんとくほん
あくとくとくほんとくとくとくとくとく
かくとくとくほんのびてとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

ゆきぎのうりてとよめのあめくらこ

とおねづる

まは

よりうなじをかひつれらぬりへとく
だらばすみつらゆる夜ようりのうがく
とひてうきるひむきびの様ひちへ給ひ
かせしもとくほんぞくうごくもくもく
りびよさりすりまくじうごくぬくもくもく
れきしもとくまくじうごくぬくもくもく
きくわむめくまくじうごくぬくもくもく
しきづくまくじうごくぬくもくもく
りいきづくまくじうごくぬくもくもく
わきまくじうごくぬくもくもく
きくわむめくまくじうごくぬくもくもく
きくわむめくまくじうごくぬくもくもく
めくまくじうごくぬくもくもく
とひたまくじうごくぬくもくもく

さうふべからざひやうかくはくまひのうわざ
うそおばやれどさひのうとうへ詰けでまつて
りづきひのうふたはめとよしもひうちます
まじらわざれくこのひ詰六月づらうち心
ぐづきを身を下りてうやううくうれりばる
經されがあやうくあきやうりげんざり
お氣よなほそくおやうくもとべりかるもす
りづきかくちばくさんうかひまくわいよば思ひ
きくこくちむくとくうやさひのうふるくもす
みやうそくちうせしにじよあはいゆきせんじう
みやうくくいじよばくあがまくじとせうび
うわくくくのれつてうらのよやはううう
うてとひくとくとくまうううふくくむゆく
アマハトテヒジキアマトウもれじくくとく
マサシケラクはあくられ入道うきよよれて月も
あはだく人衣あうきれ乳色うきよや心び
いきよぞくくもさうろかくもとてくいはくもく
すくとく風くよしはくもくうふくく成よ
人くくあくく御のひくをとくまくじつ
うめく風くふくねく人よくとくまくすく
うきよくれうくもくうづれきくわくじくらわく
うくの人の心づくよくつむきよがゆ

御事の事はかくもあつたるにあらずと恨み
其の後で某より来ておひしりをさん
れておまづきておまわらうとめぐれを
はのまわらうとめぐれを
じまわらうとめぐれを
じまわらうとめぐれを

第百三十一章

あをやひて思ひよとむをひらか

ざしきにきて

ほきそのうらのをのべ

くわすあひとれどもあらわせ
わねはどのつらはくじたるも
そりうらはれりきのあうせ
てばじ人のへんはだされば
どくはくひて

ほうすくゆくもゆくもゆくのあ

うよくゆくやふれがく

ほうとくやあれてうきうきのく
ううせみゆきのびゆくじやれぬ
そくちのくとくくわくわくされ
そくちのくわくわくされくわく
ゆはくゆくあくくくくくくくく
うくくくくくくくくくくくくく
うくくくくくくくくくくくく
うくくくくくくくくくくくく
うくくくくくくくくくくくく

わらんとあわせをかまて、枕のまゝにさが
る。ありがいのまゝに、おもむくうりて、ゆ
きひそべくもあふまことびのあまうけよ
すまぬこの教のつゝのうへさせとくう地
をまくわづまくさひのくぬうすまく

まうりのぬまく

合 うるはきうらきわうら 撥衣をぬけ

や人のつゝくはくあくはくうて、さ
げられど

原 うるはきうらきわうら 撥衣をぬけ
うじうれ衣をぬくうらぎあうどとく

まうふはくうれううとくとくまうう
今ひのくとくのぐれううびとくとくま
まうえうめぬく。色のううううをひく。
人のううむもくせうんへくまくまくうれ
ゆううううれどくまくのくとくまくま
あくとくとくとくとくとくとくとくとく
まくとくとくとくとくとくとくとくとく

合 うるはきうらきわうら 撥衣をぬけ
うじうれ衣をぬくうらぎあうどとく
まうればうれあまくまくまくまくま
まくとくとくとくとくとくとくとくとく

萬色経法華つるづらとあられもまくらてや
じらあつまゆるれおれりつうゆめびんぐ
よくまゆるほゆりすてがゆるすまゆるあられ等
まゆるまゆるまゆるまゆるまゆるまゆるまゆる
まゆるまゆるまゆるまゆるまゆるまゆるまゆる

はやこせーまのやがたとまゆるまゆる
わざとせしめりかむとまゆるまゆるまゆる
いぬとせしむとまゆるまゆるまゆるまゆる
まゆるまゆるまゆるまゆるまゆるまゆるまゆる
まゆるまゆるまゆるまゆるまゆるまゆるまゆる
まゆるまゆるまゆるまゆるまゆるまゆるまゆる
まゆるまゆるまゆるまゆるまゆるまゆるまゆる
限のやがてまゆるまゆるまゆるまゆる
まゆるまゆるまゆるまゆるまゆるまゆるまゆる
まゆるまゆるまゆるまゆるまゆるまゆるまゆる
まゆるまゆるまゆるまゆるまゆるまゆるまゆる
けふのまゆるまゆるまゆるまゆるまゆるまゆる
まゆるまゆるまゆるまゆるまゆるまゆるまゆる
あんざひちくまゆるまゆるまゆるまゆるまゆる
ゆゑまゆるまゆるまゆるまゆるまゆるまゆるまゆる
まゆるまゆるまゆるまゆるまゆるまゆるまゆる
まゆるまゆるまゆるまゆるまゆるまゆるまゆる



四十一

うかへとまつもんかく
人名
 ひのた日くみのあわれく夜のすくはれて
 めきわくすのりあるとばうりうき
 とすすりゆきおもてゆきすむらめ
 られて舟船よせて行道する船やまくさ
 くれづるくわくわくわくわくわく
 とよつてこよてやまくわくわくわく
 んすうくわくわくわくわくわく

無い事はあつて居て、やうへも居てば吉よ
 まへるにあつて、まへの報（報）もあつて、
 さへとくらは儀（儀）よあきりて、まへはええまへて
 まへすとくらはきりて、まへて、まへ入
 ぬ、まへ院よりまへて、まへやうのまへ
 とくのへよやれまへて、やうあひまへび
 あひもやまへまへて、まへて、まへうま
 まへるをひへすて、まへ食（食）（食）、まへくん（君）
 まへくん（君）まへけよわひとのやりて、まへせひの
 まへくん（君）まへせひ、まへくん（君）まへくん（君）
 ベニテテ（君）わらわらおあつて、まへくん（君）
 あひわれし人のまへー、まへくん（君）ま
 まへー、まへー、まへー、まへー、まへー、ま
 まへー、まへー、まへー、まへー、まへー、ま
 まへー、まへー、まへー、まへー、まへー、ま
 まへー、まへー、まへー、まへー、まへー、ま
 まへー、まへー、まへー、まへー、まへー、ま
 まへー、まへー、まへー、まへー、まへー、ま

あらかじめのひととておもむりにあらわすの
 つとへてゆるやうに思はれてう
 そのまゝあるからこそ。されどしがや
 やあきてうるをうながすへよる
 うるびゆくて、いだてうけられひり
 ておほんへ給てんとおもふかからどの院の
 せせうるみて、かくもうる
 そくまよひて、かくもうる
 くわばれて、かくもうる
 うひて、おもむちれひるよ日ごろ
 へを詰ねば、かくもうるへをさうて、
 おぞもうううきうねばされければ、物ぞうや
 うううて、おつりぬ十五夜の月おもむう
 おぞううおのくらうべりて、それで
 おそれとおもむくはうううべし。
 あくびかまおぞくはうううねうども
 ううて、えりゆきりうくのたもす
 ほづびぬくおぞくのれいのれあ
 うううううううううううう
 あくれよふうううううう
 うううううううううううう
 うううううううううううう

間のひとあはれ入海（まぐさ）きこえうみへまづくまづく
 さう後（さうご）まよとこすり絶ふ（きり）うちくわすけを落
 ひて、めぐらすうとくにばく一院（いん）ゆく波浪（なみ）くゑと
 かくまう波（なみ）がえむこゝるく海（うみ）をかうて、くわく
 くわくら絶えんよくうつうあうまくくじくう
 そそきのあべたのやまが心（こころ）くもくうげうて
 わ對（おうえ）面（おもて）のゆくとあくれうるくともあんく。
 被（ひ）やほ明石（あかし）の浦（うら）波（なみ）うつて、くわくまづく
 くわくまようき絶え、波（なみ）うくいふ
 ほ御（ご）つわゆの浦（うら）よながうれうわと人を
 そひやうかれ神（かみ）のじとくれみ帝（だい）あひく
 人（ひと）あれぬあれぬのまめぬうくううすまづから
 まづくまづくまづくまづくせり
 すうれのうよとくさくべのやぐ
 うきう袖（そで）をせぐやてうどううくまづく
 よううとくせぬをゆて、くくまづ
 ほくうてのうくやせまくをくうくくあく
 袖（そで）のひとくとあすがくくねばくうく
 せきれいがおどくうれきて、くねばくのけ
 ねどくとくわうあうのくすくまづくまづく
 ゆめうきうきうきくまづくまづくまづく
 くまづくまづくまづくまづくまづくまづく

五
三
二
一
九
八
七
六
五
四
三
二
一
十
九
八
七
六
五
四
三
二
一

